

平成 29 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	コンピュータリテラシ	担当教員	鈴木正人	
学年学科	1 年 環境都市工学科	前期	必修	1 単位
学習・教育目標	(E) 100%			
授業の目標と期待される効果： パーソナルコンピュータの操作方法の基礎を身につけ、電子メール、ワープロ、表計算、の各種ソフトウェアの基本的な使用方法について学ぶ。基本的な操作方法が身に付けば、後は実験実習のレポート作成など様々な用途に利用し、各自でソフトウェアに習熟していってけることを期待している。 また、関数電卓の基本的な使い方について習熟する。さらに初心者にも取りかかりやすいプログラミング言語である十進 BASIC によりプログラミングの初歩について学ぶ 具体的な目標を以下に示す ① ワードプロセッサソフトが使用できる ② 表計算ソフトが使用できる ③ 関数電卓の基本的な使い方ができる ④ BASIC 言語の文法の基本の理解		成績評価の方法： 総合点 200 点＝中間試験 100 点＋期末試験 100 点とし、総得点率によって成績評価を行う 達成度評価の基準： 授業中の演習と同レベルの問題を試験で出題し 6 割以上の正答レベルまで達していること。成績評価への重みは均等である ① ワードプロセッサソフトを利用し簡単な文書と作画が正確に (8 割以上) 作成できること ② 表計算ソフトウェアを利用し簡単な表計算とグラフ作成が正確に (8 割以上) できること ③ 関数電卓を使い、関数を含む計算が正確に (8 割以上) できること ④ BASIC 言語により基本的なプログラムがほぼ正確 (6 割以上) に組めること		
授業の進め方とアドバイス： 情報処理センターにてパソコンおよびソフトウェアの使用法を中心に学ぶ。中間試験前は主にソフトウェアの使用法を、中間試験後は十進 BASIC を教材としてプログラミングの初歩について学ぶ。その後、関数電卓を共同購入しクラスルームにて関数電卓の使い方を練習する。USB メモリは容量の小さい (数 GB) ものでよいので、各自で用意すること				
教科書および参考書： プリント、および、関数電卓 (SHARP EL-509M) の説明書を教科書として用いる				
授業の概要と予定：前期				AL のレベル
第 1 回：情報処理センターにあるコンピュータの利用方法。電子メールソフトの設定				
第 2 回：ワードプロセッサソフトウェアを用いた文書作成				C
第 3 回：ワードプロセッサソフトウェアを用いた作画 (その 1)				
第 4 回：ワードプロセッサソフトウェアを用いた作画 (自由課題&クラス内で紹介)				B
第 5 回：表計算ソフトウェアの基本的な使い方 (その 1)				
第 6 回：表計算ソフトウェアの基本的な使い方 (その 2)				
第 7 回：表計算ソフトウェアの応用的な使い方 (グラフ作成、関数)				
第 8 回：中間試験				
第 9 回：講義で使うプログラミング言語の説明				
第 10 回：プログラムの入力と保存、実行				
第 11 回：入出力を伴うプログラム				
第 12 回：繰り返しを伴うプログラム				
第 13 回：分岐を伴うプログラム				
第 14 回：関数電卓の基本的な使い方と関数電卓を用いた計算の練習				C
期末試験				
第 15 回：期末試験解答解説など				

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	ワードプロセッサソフト を利用し簡単な文書と作 画が正確に（8割以上） 作成できること	ワードプロセッサソフトを 利用し簡単な文書と作画が ほぼ正確に（6割以上）作成 できる	ワードプロセッサソフトを 利用し簡単な文書と作画が 作成できない
②	表計算ソフトウェアを利用 し簡単な表計算とグラフ 作成が正確に（8割以上） できる	表計算ソフトウェアを利用 し簡単な表計算とグラフ作 成がほぼ正確に（6割以上） できる	表計算ソフトウェアを利用 し簡単な表計算とグラフ作 成ができない
③	関数電卓を使い、関数を 含む計算が正確に（8割 以上）できること	関数電卓を使い、関数を含 む計算がほぼ正確に（6割 以上）できる	関数電卓を使い、関数を含む 計算ができない
④	BASIC 言語により基本 的なプログラムが正確（8 割以上）に組める	BASIC 言語により基本的な プログラムがほぼ正確（6 割以上）に組める	BASIC 言語により基本的な プログラムが組めない